

☆四旬節第1主日(2月21日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（創世記 9章 8-15節）

神はノアと彼の息子たちに言われた。「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獸など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獸と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」更に神は言われた。あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々とこしえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。わたしが地の上に雲を湧き起させ、雲の中に虹が現れると、わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。

第二朗読（使徒ペトロの手紙Ⅰ 3章18節～22節）

愛する皆さん、キリストは罪のためにただ一度苦しまれました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたか、靈では生きる者とされたのです。そして、靈においてキリストは、捕らわれていた靈たちのところへ行って宣教されました。この靈たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待つおられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通って救われました。この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢力は、キリストの支配に服しているのです。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 12–15節）

それから、“靈”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獸と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ

少し春めいてきましたね。俗に三寒四温と言いますが、これから少しずつ暖かい日が多くなります。期待して春を待ちましょう。新型コロナ感染症のためのワクチンの接種が始まりました。今までコロナに対して守勢に立たされていましたが、明るい材料が増えてきました。さて今日は四旬節第一主日です。四旬節は灰の水曜日から始まって、聖土曜日までです。この期間は復活祭を迎える準備の期間でもあります。この期間に私たちに求められているものは、回心、神との和解です。具体的には節制(断食)し、心を改めるゆるしの秘跡を受ける、善い行いに励むなどを通して、回心と神との和解を現わすのです。今日の聖書朗読を味わいましょう。

第一朗読（創世記 9章 8–15節）

ここでは創世記の中でも多くの人が知っている「ノアの箱舟の物語」が紹介されています。大変示唆に富んだ物語ですが、人間と神との関係が良く示されていると思います。いつくしみ深い神は人間を滅びのままにしておかれません。「ノアの箱舟」は洗礼による救いを表現し、「虹」によって神との契約を思い出させるのです。「虹」は天と地を結ぶ橋、契約、希望を現わしています。七色の虹と言われるように、神との契約はいろいろの形、意味をもって私たちを励まします。水による洪水は私たちの滅びを現わしていますが、その同じ水によって「虹」が出現し、美しい救いの希望を現わしています。雨の後に現れる虹を見るたびに、神がなさった救いの約束を思い起こしましょう。

第二朗読（使徒ペトロの手紙Ⅰ 3章18節～22節）

水はノアの時代の洪水のようにあらゆる悪い者、悪い事を押し流しますが、洗礼の水という形によって私たちを神との関係に引き入れるものでもあります。洗礼の水は私たちの罪を洗い流しますが、それだけでなく、私たちがキリストのように神に受け入れられる人になっていくことを現わしているのです。つまり洗礼とはキリストに倣いキリストのように生きることを選ぶことです。キリストは十字架の苦しみ、死を通して死を滅ぼされました。その復活によって神のために、神によって生きるものとなったのです。私たちもこのキリストに倣うように招かれていることを心に記しましょう。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 12－15節）

イエスが悪魔の誘惑と戦ったことが述べられています。罪以外は人と同じ試練を受けられたのです。どのような誘惑、試練に会われたかはマタイ福音書、ルカ福音書に記されています。「石をパンにするように」とか、「世に権勢をふるっている悪魔を礼拝するように」とか「神を試みるよう」などの誘惑で、イエスはことごとくこれらの誘惑を退けられたのです。この時イエスは荒れ野で四十日四十夜過ごされたと書かれていますが、今私たちが過ごしている四旬節はこのイエスの試練の期間を現わしているとされています。そのほかに「ノアの箱舟」の洪水の四十日間、モーセに率いられたイスラエルの民の荒れ野での四十年に表される様に、聖書の四十という数字は「試練」「苦しみ」を現わしているとされています。イエスが誘惑・試練に打ち勝たれたように私たちも試練に打ち勝てるようイエスにその力を願いましょう。そのためにはイエスがなされたように節制による自己の鍛錬が必要です。そして同時に、イエスが聖書の言葉をもって悪魔を撃退されたように、神のことばである聖書をよく知ることが大切です。

PS

四旬節は節制と愛の行いを実践することが勧められています。一日一本の缶ビールを節制すると、例えば 150 円。これを 40 日間で 6,000 円。こんな感じで「四旬節愛の献金」を捧げていただくと嬉しいです。この愛の献金は隣人愛の表現です。チャレンジしてみませんか？

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光